

■はじめに

秋の本番を迎え、それぞれの学校では、学校行事の真只中であろうかと思えます。様々な苦勞をおかけしておりますが、引き続き、本年度の後半もよろしく申し上げます。



■「奈良の学校」展覧会から



左の写真は椿井小学校の写真です。この写真は、10月6日まで奈良市美術館で開かれた「奈良の学校」という展覧会のポスターに掲載されました。

さて、明治5年に日本の近代教育の原点といえる学制が公布されました。その中には、次のような一文があります。「必ず邑（ムラ）に不学（フガク）の戸（コ）なく、家に不学（フガク）の人、なからしめん事を期（キ）す。」

この頃に開校した学校は、今年で創立140年を迎えます。市内でもこのころに開校された学校が十数校あります。そんな昔から多くの学校があったのかと驚きますが、奈良にこの時期突如として学校がつくられたわけではなく、江戸時代以前からの高い教育力が背景となっていたようです。例えば、江戸時代には、武士の師弟を対象とした学校や、庶民教育の中心であった寺子屋がありました。当時、奈良県内にあった寺子屋の数は300ほどだそうです。現在の県内小学校は200校ですから、いかにたくさんの寺子屋があったかということが分かります。

写真の椿井小学校を開校するに当たっては、奈良町の人々が自分たちでお金を出し合って学校を作っていたと聞きます。現在の精華小学校の校区に北椿尾という町があります。そこには以前、精華小学校北椿尾分校がありました。この分校は、地域の方々が「土地を提供する、山で木を切ってきて校舎も建てる。だから先生を呼んできて村の子に教育をしてあげてほしい」という思いで開校されたそうです。

このようにして、奈良町のお寺や神社に学校が設置され、徐々に奈良町周辺の村々に広がっていきました。学校は神社やお寺だけでなく、一般の家にも設置されていたことがあそうです。つまり、学校は地域の人々の思いによって育てられてきたものだとことを、私は今回の展覧会をもって感じました。

■飛鳥中学校の取組から

9月28日に、飛鳥中学校の生徒会役員たちが、東日本の震災で被災をした宮城県の仙台市の西山中学校の生徒をと先生を招いて交流を行いました。昨年度から文部科学省の「学校施設の防災力強化プロジェクト」という事業を受けて、昨年は飛鳥中学校の生徒等が仙台を訪れました。仙台の子どもたちと交流した奈良市の子どもが、今度は仙台の中学生を奈良に招待しようと考え、地域で防災訓練が行われる日に合わせて西山中学校の生徒を招き、地域の方々と一緒に防災について考える集会を計画しました。



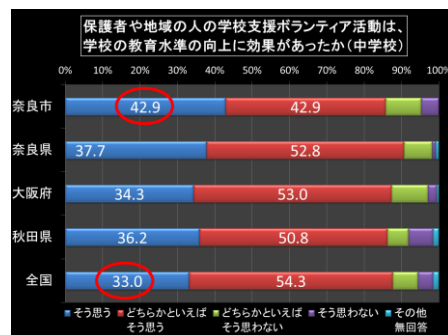
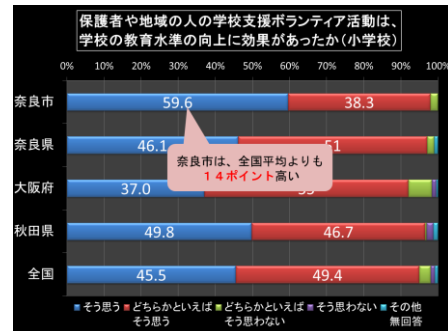
左の写真で発表しているマイクを持った女子とその隣の男子は、西山中学校の生徒会の代表者です。自分たちが被災した体験から得た教訓を、どのようにして生活の中に生かしていくのか、あるいは、自分たちが考えたり、気づいたことについて、今度はどれだけ多くの人に伝えていくのか、ということについて発表してくれました。その後、参加していた地域の方々から質問を受ける形で、活発なやりとりがありました。地域の方からは、様々なシビアな質問が出ました。もちろん事前に何の打ち合わせもありませんから、すぐに答えられないものもありました。それでも、西山中学の生徒は、じっと考えてから、しっかりと返答していきます。私はその姿を見て「さすがだな」と思ったのです。

その中で、地域の方からこのような質問がありました。「防災の集まりには小さい子供やお年寄りによく集まっている。でも若者はなかなか集まってくれない。どうしたらいいと思うか」という質問です。すると、西山中学校の生徒は「若者がこのような集まりに集まってこないのは、日頃からの備えの重要性に対する意識が低いからだと思う。だから今回のような防災意識を高める集会をたくさんして意識を高めていくことも、私たちの役割だというふうに考えている」と答えてくれました。今回の集会は、中学生が仕掛け、地域の方々と一緒に防災意識を高めようとする新しい取組ですが、今、市内の学校では、このような「地域と学校」が連携し、協働した取組が、随分広がりを見せてきました。誠にうれしい限りです。

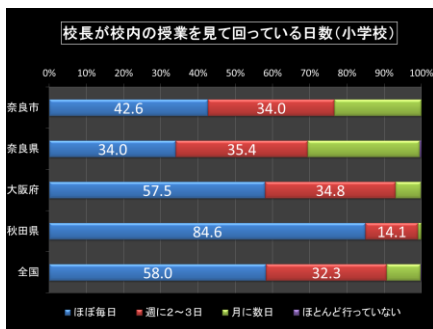
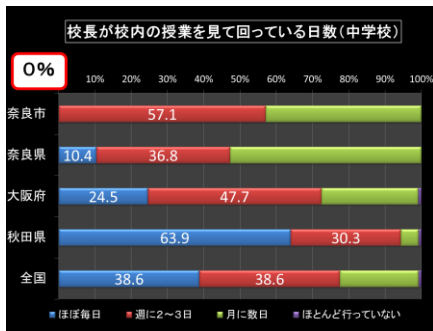
その中で、地域の方からこのような質問がありました。「防災の集まりには小さい子供やお年寄りによく集まっている。でも若者はなかなか集まってくれない。どうしたらいいと思うか」という質問です。すると、西山中学校の生徒は「若者がこのような集まりに集まってこないのは、日頃からの備えの重要性に対する意識が低いからだと思う。だから今回のような防災意識を高める集会をたくさんして意識を高めていくことも、私たちの役割だというふうに考えている」と答えてくれました。今回の集会は、中学生が仕掛け、地域の方々と一緒に防災意識を高めようとする新しい取組ですが、今、市内の学校では、このような「地域と学校」が連携し、協働した取組が、随分広がりを見せてきました。誠にうれしい限りです。

■学力・学習状況調査から

このような取組のベースにあるのは、現場の先生方の努力であると思っています。先日、全国学力・学習状況調査があり、その中に「保護者や地域の人の学校支援ボランティアは学校の教育水準の向上に効果がありましたか」という質問がありました。奈良市は、小学校で見ると全国平均よりも約 14 ポイント高く、大阪府よりも 20 ポイント以上、また、「学力調査の結果が高い」秋田県と比べても 10 ポイント以上高い結果が出ています。これは中学校においても同様で、全国平均よりも 10 ポイント近く高いという結果が出ています。先ほど紹介した取組のような地域の方と一緒に取り組むボランティアが本当に定着してきているということを改めて思うとともに、先生方の努力が実ってきていると感じています。



同調査の中に「校長が校内の授業を見て回っている日数」という質問がありました。奈良市の小学校は、先ほどの地域連携の比較グラフで示した、大阪や秋田、あるいは、全国平均よりも 16 ポイントも低いという結果が出ています。大変残念なことに中学校では、「校



長がほぼ毎日校内の授業を見て回っている」と回答した中学校は、奈良市内では0校でした。「週に2日から3日見て回っている」という回答を合わせてもまだまだ他府県や全国平均より低く、「月に数日」という学校も半数弱ありました。先生方には、今の学校現場の抱える教育的な課題への対応で、毎日ご苦労いただき、お忙しくされているということも、十分承知しておりますし、この数字一つをとって「あれこれ」申し上げるつもりは決してありません。しかし、ベテラン世代の大量退職に伴う「経験の少ない若手教員」が大量増加している今日、よく言われる「教師力の向上」や「学校の組織力の向上」いう視点からも、ここで少し考えてみる必要があるのではないかと考えるのです。

■ 有意義な研修とは

はぐくみセンター（奈良市教育センター）がオープンして今年で3年目を迎えます。この、はぐくみセンターのオープンと同時に教員生活をスタートし、同センターで初任者研修を受講した3年目の教員に「教科指導や生徒指導に関する資質能力向上のために必要と考える取組は何か」について、はぐくみセンターが独自に調査をしました。その結果から、「管理職や同僚に相談して指導を受けること」や「他の先生方の授業参観」、「自分の研究授業の実践」、「校内研修」等の回答が多く見られました。実際に、法定研修である初任者研修においても、校内・校外研修を合わせた全体を450時間とすれば、校内研修が300時間、校外研修が150時間の割合になり、校内研修が大きな位置を占めています。いかにそれぞれの学校の中で校長先生はじめ同僚や先輩の先生方に見守られ、声をかけられ、あるいは指導してもらうことが、有意義な研修となっていることが分かります。

今、学校現場では、50歳に満たない教員が、全体の半数以上を占めるようになりました。奈良市においても教職経験3年以下の教員が300人を超えています。まさしくこの人たちが次の奈良市の教育を、次の時代の奈良市の教育を担っていくのだらうと思います。だからこそ、校長先生には時間の許す限り教室を見ていただいて、そして先生方のわずかな変化を見落とさないでアドバイスをさせていただきたいと思います。私は、その日々の積み重ねが、人を育てるための、最も近道であると思うのです。

《動画視聴》「採用3年目を迎えた教員の声」の要旨を抜粋し掲載

- ・教育センターで研修を重ねるにつれ、同期の仲間や指導主事の先生方との人間関係もでき、はぐくみセンターの研修に帰ってくるのが嬉しい場所となりました。これからの研修や10年経験者研修には、成長した自分が帰る場所としたいと思います。
- ・校長先生は700人もの児童がいる学校で、私が担任するある児童の顔と名前を覚えておられ、その子ども自身、ひいては私自身もすごく救われたできごとがありました。校長先生は学校全体をよくみておられることを知り、すごくうれしかったです。
- ・担任する学級で起こった課題に対して、先生方はもとより、保護者の方にもまで支えていただき乗り越えられたことが貴重な経験となりました。

■終わりに

初任者の中には、講師経験のある方もいれば、大学を卒業してすぐ教壇に立って不安な毎日を経験しながら、「子どもたちの目に魅力ある人間として映るよう前進し続けたい」と思っている若手教員もいます。これぞまさしく、「教育は人なり」に重なるところです。「奈良市の教育を受けてよかった」と、子どもたちが思える教育をするために、若い先生方を、何とかみんなで育てていこうという雰囲気が、学校の中に出来ていけば、学校力は自ずから高まっていくのだろうと思います。校長先生はじめベテランやミドルリーダーとなる先生方が、率先して若い先生方の授業を見て、助言をしてください。何度も申し上げるように、奈良市の「明日を担う子どもたちのために」と、志をもって教壇に立っておられる先生方の、より一層の資質能力の向上に向けて、さらなる「人づくり」をお願いします。

